

第4学年「図画工作」学習指導案

授業者 小沼 律子

2月21日（木）アトリエ 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

1 題材名 「教室をデザインする」 ―「明かり」のデザイン 1―

2 題材（単元・活動について）

本学級では、4月当初、各国からそれぞれの背景をもつ帰国児童が集まっていた為、それぞれの背景を感じることができるような題材を考えていた。そこで、まずは、てつがくの授業で、ゆっくりとお互いの背景を語り合った。子どもだけではなく、親子でてつがく対話も行なった。その中で、子どもや保護者から、「海外の学校では、ブレイクスルーできる、リラックスできる場があった。」という発言があり、自分達もそういった空間を作りたいとの提案があった。そこで、異質な他者との対話をくりかえし、「創造活動×図画工作×てつがく」のように、異教科を往還しながら、自分達の「教室空間」について、多角的に考えデザインしたいと考えた。（これまでのデザイン会議、決定、制作の過程については当日、話し合いの際にご紹介したい。）

今回は、教室デザインの「明かり」の制作である。そのきっかけとなったのは、「イサム・ノグチ展」の鑑賞である。2018年9月に、帰国児童学級は「イサム・ノグチ展」を鑑賞した。イサム・ノグチの背景と子どもたちの背景が重なった為、作品から作家の生き方を感じてほしいと考えた。この鑑賞では、どの作品もおもしろがっていた子どもたちだが、明かり（照明）のデザインのブースに来ると、その明かりの美しさにひきつけられ、長い時間鑑賞していた。その時にある子どもから「教室デザインで、明かりのデザインをしたい。」という提案があった。早速クラスに戻り、話合った結果、どの子も明かりをデザインしてみたいということで、新たに「明かり」のデザインを加えることになった。

しかし、子どもたちが配置し直した「リラックススペース（仮）」は窓側である為、その場に本当に必要なか？必要であれば、コンセプトに合い、その状況に適した「明かり」とは何かなどを、あらゆる面からの視点を踏まえてデザインさせたいと考えた。1月当初から、実際にリラックススペースに座り、光の差し具合や温かさを感じ、数値だけでなく、自分が感じたことを記録している（朝・昼・午後の3回）。展覧会でみたような照明だけでなく、子どもたちには自然光を利用したものも提示し考えさせたい。その際に、今まで調査してきた事を、「リラックススペース」のイメージや状況と合わせてみていきたい。そして、自然光が差し込む窓側に設置することで変わる「明かり」のデザインについてさらに考えたい。

3 学習活動計画（本時：8時間目／全12時間）

- ・「イサム・ノグチ」展をふりかえる。・・・・・・・・・・（1時間）
- ・「明かり」について、コンセプトや場を踏まえて考える。・・・・・・・・・・（2時間）
- ・ゲストティーチャーからいくつかの照明を紹介してもらう。・・・・・・・・・・（2時間）
- ・コンセプトや場に合った「明かり」をデザインする。（試作も含む）・・・【本時】（3時間）
- ・決定した「明かり」のデザインを共同で制作する。・・・・・・・・・・（4時間）

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

自分達が設定したコンセプトと、窓側のリラックススペースで感じたこと、また様々な照明の例を踏まえて、自分達の「明かり」をデザインする。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
・調査で感じたことと自分達のコンセプトを照らし合わせて考える。 ・様々な照明の例をみながら、自分達のデザインに取り込んでいく。	・当日は、実際の教室で授業が行なえない為、できるだけ教室の状況を思い出せるように、写真や映像等の資料を提示する。 ・デザインすることに時間をかけ、制作を急がせないこと。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

子どもが「教室」をデザインすることについて